

# 幼 兒 教 育

第 二 卷 第 二 十 一 號

大 正 十 二 年 二 月 十 五 日 發 行

## 目 次

おとぎばなし(口繪)……………加藤まさを

現時の保育問題……………森川正雄

國家と兒童……………三輪田元道

森の幼稚園……………倉橋惣三

米國に於ける兒童福祉事業の新計畫……………高木光之介

まゆだまに就いて……………坂内ミツ

雜 報

幼兒のうゝその研究……………黒瀬艶子

日 本 幼 稚 園 協 會

# 會告

○會費御拂ひ込みの節は御名前前は初め御入會の時の御名前と御同一になし下され度く、例之ば初め幼稚園名にて御入會、後、個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき様必ず願上候整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに互り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

## 本誌定價

一冊(郵稅共)金貳拾五錢 六冊 前金壹圓五拾錢  
十二冊 前金 參 圓 (郵券代用壹割増)

## 購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

大正十年二月十二日印刷

大正十年二月十五日發行

東京市下谷區花園町一番地  
編輯兼發行者 黒 瀬 號

東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
印刷者 柴 山 則 常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
印刷所 杏 林 舍

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雑誌たるべく苦心して居ります

# コドモ

幼童  
雑誌

# 良友

# 童話

本誌はコドモの兄様姉様に當り、小學生の讀物として最も適當な雑誌です

近來子供雑誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。

世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選べるゝであらうか。

單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に一任して置いてよいであらうか。

東京市小石川區 東林町十五番七地 發行所  
電話 六一八二 電 話 六一八二  
社モドコ

# 玉成保姆養成所生徒募集

毎年多數の卒業生を社會に送り出して居ります  
 ます本養成所は今年も既に新學期入學者の  
 願書を受理して居ります。

新學期は四月十日から始まります。

授業は毎日午後二時から五時までです。

尙規則等について詳しいことは、同養成所

所長のソフアヤ・アラベラ・アルウ・ン嬢宛

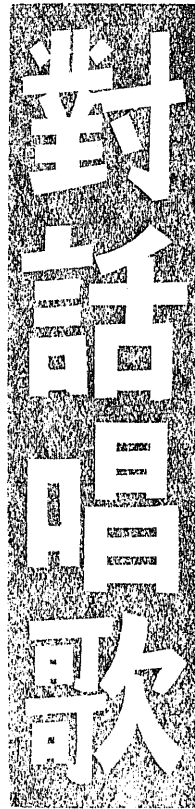
(東京市麴町區上二番町三三〇)に照合なされ

たらよろしいと存じます。

小兒内科 (乳兒兒童 の内科病)	内 東五日本橋區西町三ノ一 科 醫學博士 尾美知
	入院願書 麴町街三三六
乳婦内科 (妊婦授乳 婦内科病)	内 東五日本橋區西町三ノ一 科 醫學博士 尾美知
入院願書 麴町街三三六	入院願書 麴町街三三六

# 唱歌劇の寵兒

東京市礪川小學校訓導  
 東洋家政女學校講師  
 水谷式夫先生著



定價

各册 金參拾五錢

郵稅各貳錢

第一編 舌切雀 第四編 桃太郎さん

第二編 こぶこり 第五編 花咲爺

第三編 文福茶釜 第六編 さるかにかに

以下 浦島太郎、からから山等續々刊行

本書の實質は已に、皆様御承知の筈。各學校家庭よりの御註  
 文日々殺到重版重版又重版發行以來實に拾數萬部の御買上に  
 接し本書發賣以來類書多數刊行せられたるに徴しても如何に  
 本書の眞價の絶大なるかを知る切に御愛唱を希ふ

發賣

東京市芝區  
 松本町四十四番地

合資共益商社書店

振替東京一五八〇番



おとぎばなし

加藤 幸子



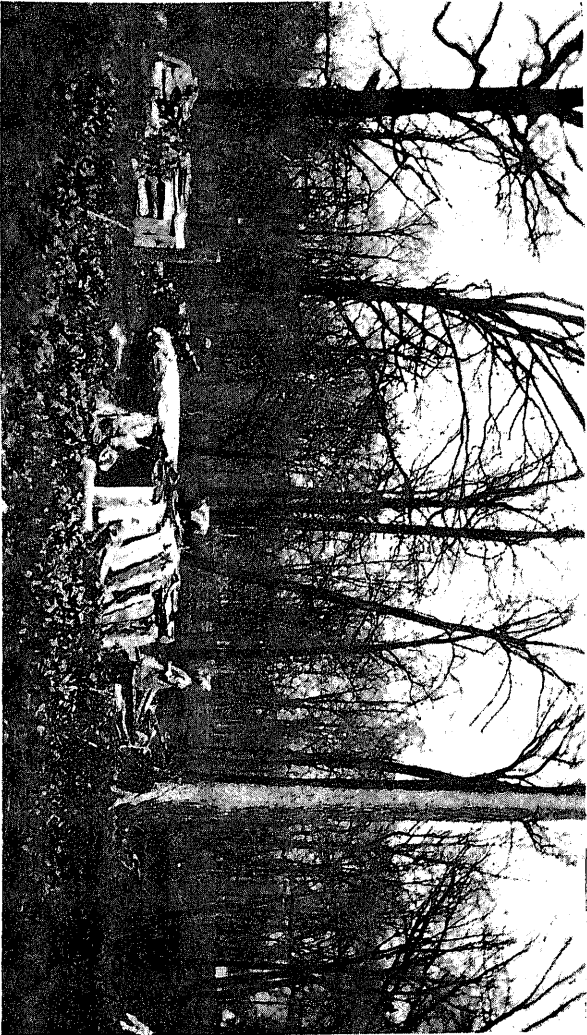
森の幼稚園前風景



立關まへにて

(先生の方の中帽子をかぶる、スミ、セルマ)

森の中





# 幼 兒 教 育

第二十一卷  
第二十一號

大正十年二月十五日發行

## 現時の保育問題

奈良女教師教授 森 川 正 雄

### (一) 自由方案(非形式的方法、プロセクトメソッド、創造教育案、問題解決主義など)の利害

幼児の生活は出来るだけ自由にしてやるが宜いと言ふ考は多年唱導せられて居ることでありませう。併し是がまた濫用されると色々な難儀なことが起つて来るに極つて居ます。現今行はれて居る色々な考を見ますと(一)幼児は小なる大人ではない、其生活は幼児特有のものであらねばならぬ、大人の考案で幼児を導くと兎角に幼児の要求を無視し、無理な事を強ひることが多くていけないと言ふので唱へられて居る児童中心主義、又(二)幼児には練磨よりも愛護が必要である、形式的の陶冶は早過ぎる、保育所の保育は丁度、幼児がその家庭で父母兄妹より傳へられる様な自然的方法によつて施さねばならぬと言

ふので唱へられて居る非形式的方法、又(三)遊戯や作業やすべて幼児自らの計畫によつて、幼児の思ふ通りに行はせるが宜いと言ふので高調せられて居るプロセクトメソッド(四)新生、工夫、發見を重んずる創造教育(五)幼児が何か或目的を立て、仕事をし居るとき其中間に幼児に取りて難問題が起り、それを解決處理する様に獎勵せねばならぬ、是がなくしては幼児の仕事は無價値であるといふ様に考へられた問題解決主義などであります。是等種々の主義方法は著眼點の相違によつて名目を異にして居ますけれども、結局、大人の規定によらず幼児の要求に従ふといふ點から言へば共通的であります。いま一括して暫く自由方案と名けておきます。此の自由方案は勿論、幼児教育に於ての根幹主要の方法たるべきは疑ひをいれぬ所であります。併し餘りに幼児の要

求といふこと自由といふことに偏り、父母教師の監督指導を怠つては甚しい弊害を生ずるにきまつて居ます。次に各種の研究報告及自己の経験をまごめて其利害の點を概略對比して見ようと思ひます。

### 一、自由方案の利益の點

(ア) 幼兒に同じ事を一齊に教へるのでなく、個人個人の要求を満足させることが出来る。

(イ) 幼兒の自發によるのであるから行動の動機や興味は純正である。

(ウ) 外部的壓迫によるのではなくて仕事に對する態度が藝術家的である。

(エ) 思想行動に干渉がなく獨立的であるから眞の實力が出来、又これに對する自覺自信が確實である、自己判断、自己決定といふことが鋭敏に働く。

(オ) 一問題、一仕事について其れが出来上るまで自由に時間を取ることが出来るから、其問題其仕事についての觀念を明白にし又關係觀念との連絡を充分にすることが出来る。

(カ) 環境に對する調節生活が自然的で且徐歩的に出来る。

(キ) 注意の集中といふ事が出来易い。

(ク) 衆幼兒各別々の事をして居るから相互の妨げをしないやうに自發的に自治の方法を考へるから、訓練看護上の難問題が却つて減少する。

(ケ) 數人共同して作業をする時には各幼兒は同一事をするのでなく全體の中の異つた部分々々を擔當して居り協調と責任といふことを學ぶから、社會生活に關する根本觀念即ち部員と團體との關係觀念が眞實に感得せられる。

(コ) 個性、獨創、自己發表、先導者的氣風を養ふに都合が宜い。

(サ) 教師の側からは個人觀察がよく出来る。

### 二、自由方案の不利の點

(ア) 個人的要求には氣まぐれの事が少くない。種類の要求が次々に起り、馴れない中は特に選擇に迷ひ彼や是やと仕事を仕散らかしにする。又早く結果を見んど焦り、その爲に仕事は粗雑となり、氣分は落付かない事が少くない。

(イ) 興味に偏癖が出来、一側的になる恐がある。何時も何時も同じ事をし所謂十八番<sup>オーストリア</sup>を演じて居る事が少くない。

(ウ)教師の示唆がないから、何をするにも始終、試行錯誤法によらねばならぬ。盲探りで度々、失錯を繰返すから時間と努力との空費が多い

(エ)本能的には兎角に嫌に思ふことでも、事情に迫られ止むを得ずやつて見て、意外にもその中に自分の眞要求や興味を發見することが誰にもあるものであるが、此方法ではかゝる機會には逢ひにくい。

(オ)此方法は幼兒の環境に或度の文化の存在を豫想して居る。場末の保育所などに此方法を用ひると、幼兒は酔漢、酌婦、喧嘩、賭事など、よからぬ計畫を立て、遊ぶから教師の監督指導なしには行はせ難い。

(カ)組織、訓練、權威に對する尊敬の念、從順、沈著と言ふ様な氣風を養ふことが困難であり、兎角に幼兒はさわぎや、自己主張家、利己的無遠慮者になり易い。

以上は概略に過ぎませんが、さて右の利益の點を失はずに不利益の點を最少限度に輕減するには如何にすれば宜いかと言ふに、それは父母教師の指導によるの外ないのであります。それについては獨創と統

制、個人と社會、自由と指導との關係が相反乖離のものでなく相互助成の關係に在るものなる事を強く考慮しおく必要があると思ひます。獨創は統制を得て更に歩を進め、又個人は社會の部分であり且個人實現の唯一の境地であるといふこと、又自由は唯條件を示したに過ぎない、有價値の自由が眞の自由で無價値の自由は却て害であること考へねばなりません。元來自由がよいと言ふのは既に暗に自由にさるべきもの、善なる事を豫想して居るのであります。若しも自由にさるべきものが動物園の猛獸の如きものであり、自由にすることが檻を破ることを意味するのでありとすれば、自由ほど恐ろしい事はありません。又自由方案と言ふ、方案といへば既に制限と組織を意味したものと云はねばなりません。凡そ治者、教育者は被治者、被教育者に自由を與へることによつて自らをも自由にするでなければ共に進むことが出来ないのだから、幼兒教育に於ても自由を原則とすべきこと勿論のことであります。併しながら自由は自爲自治の方に應じて與へられるでなければ其效はないのであります。要するに幼兒教育に於て自由と指導とは車の兩輪の如く二者共に存して始めて教を完うするものであります。(次號に續く)

# 國家と兒童

|| 兒童學會に於ける講演概要 ||

文學士 三輪田元道

兒童研究には哲學の背景が必要である。抑も宇宙は成長し發展する、その中に存する國家も亦進歩するものである。但し國家の物質的進歩には制限があるけれども、精神的進歩には制限がない、従つて世の文化中内部的成長と發展はおのづから無限でなくてはならぬ。故に國家の成長し又發展する新芽とも稱すべきものは兒童であるから、兒童研究は動的要素として哲學的基礎の上に立たねばならぬ。

一國の傳説は國民の信念をあらはすもので神話でも小説でもお伽噺でも人が作つたものに相違ないけれど、その精神は皆民族の心理が經となり緯となることを忘れてはならぬ。桃太郎は日本の哲學である。成長と發展とのシンボルで、其精神は宇宙の成長と發展とを現はすものである。されば右の信念を経験的に現すと、子煩悩の詩歌となり文章となる。例へば「しろかねもこがねも玉も何せん子にしく寶世にあらめやも」の様なものはそのれである。併し一方より

見ると人間に利己心があり往々子供を忘れる事がある。否小供を犠牲に供することさへある。徳川時代に發達したドラマには人間の悲哀を現はすに子供を材料にするものが多い。有名な芝居はこれである。「三十三間堂柳の由來」でもその妻は一寸氣味が悪いが間に生れた縁丸は可哀想である。「近江源氏」も子供活躍が必要であり、「先代萩」でも子供が出なくてはならぬ。要するに小供を通して人情味を知ることが出来る。

然るに我々の實際生活は殆ど大人本位即ち自己主義本位であるから、兒童研究などが充分發達しない。従つて在來の國家が子供に對する態度は消極的である。これ大に改むべき點であらう。

日本の刑法では大體子供に關する規約が二つある。一つは墮胎をしてはならぬこと。これは人類の將來を考へると最も必要であるが、墮胎の場合は子供とて未だ獨立の人格でなく知覺神經も充分發達して居

らぬ。故に小供に對するといふより寧ろ風俗上社會政策として之を罰すると思はれる。されば胎内の子供を惜む爲めにあらずして風教上之を禁止せんとする爲め、本人たる婦人は僅に一年以下の體刑を加へられるに過ぎぬも補助した醫者はもつと重い刑罰を加へられるを見ても知れる。

次は刑法上遺棄に關して制裁がある。併しこれも子供や老人及び不具者を遺棄してはならぬといふに過ぎぬから全く消極的である。近來少年裁判制度杯が新に生れて稍、兒童を積極的に扱はんとする傾向は現はれたけれども、未だ幼稚なものである。

民法にも扶養の義務が規定してあるけれども、世の中には生んだ子供を育てぬ者が澤山ある。然し之を制裁する方法がないから空文に過ぎぬ。又民法に親權を認めてあるも、其實親は子供に對して職業と住所につき干渉し得る丈である。就中不合理にして不愉快なのは民法の私生兒である。日本位私生兒の多い國は世界にない、道德的に三々九度の盃をしても法律の手續をふまぬと私生兒である。必竟するに私生兒の制度はその親を制裁せん爲め設けたので其實は子が制裁を受くることになる。即ち親が道ならぬ男女關係を結んだ爲め私生兒と云ふ名をつけて子

供を社會が擯斥し輕蔑するのは不合理である。若し私生兒を生む親に制裁を與へるなら罰金なり懲役なりを課するが可い。國家は罪のない未來の子供に制裁を與へるのは誤に相違ない。或人は親の罪が子に報ゆるのは當然である云へど、それは昔流の思想で今日は責任は個人にあるので親の制裁を子が受くる道理はない。尙私生兒の中にも男親がこれを認知すると庶子となり、女親が認知しても駄目であるのも不合理である。要するに日本の法律上の子供は可愛想である。

次に日本の教育制度に根本的誤がある。歴代内閣皆然り、即ち我國家の教育制度は文字に拘泥して學校を大中小に分ち、小學教育は自治制の市町村に任し、中學教育は府縣に任し、大學教育は國家自らこれを行ふことになつて居る。此頃文部省に昇格運動のお客さんが澤山來るのは此の爲である。所が國家が義務教育を國民に強行する以上は小學教育を以て國家事業となし、中學教育は、府縣、又は私學に任じ、大學教育は模範的の外は私學を奨励し富豪或は有志家の手にて行ふ事にすれば可い。偶々富豪が大學をたてんとしても、私學を厭ふ氣味があるから發達しない。明治の初年には教育の種を蒔く時であるから國家自ら事業を興さねばならぬが、既に國民の知識が進めばうつちやつておいても知識慾の爲め高等教育は進歩するに相違ない。反之今日村落の小學

校に行くに不景氣の爲め町村會で教師の月給を澤山拂はぬ、由て勢ひ義務教育は國家自ら之を行ふ時代が來たと思ふ。然るに東京でさへ今日義務教育を口にしながら二十錢の授業料を取つて居る誠に不都合ではないか。今後は授業料を撤廢するのみならず教科書でも文具でも供給するやうにせねばならぬ。

次は子供の服裝を改良してほしい。元來子供は遊ぶもの、快活に飛びまわるもの、故に衣服に泥がかり、はねがかゝつても叱られる様では困る、兎に角著物の爲に子供を苦勞させるのは可哀想である、雨にぬれても肌迄しまぬ様ラシャ式の洋服等がよい。將來の小供服は洋服に限る。

次は食物の料理法も小供を無視してはならぬ。文明國特に近來の日本の兒童には齶齒が多いこれは石灰分の缺乏に原因すると説く醫者がある、抑も石灰分は穀物の皮や魚の骨や鳥の骨等から多く得られる、されば子供に適する料理を工夫せねばならぬ。在來の料理は大人本位即ち酒の肴式であるから禁酒論の盛なる今日に於ては速に改善を要する次第である。

次は住宅の改善である、概ね在來の住宅は子供を無視して居る、例之ば小供が内にゐると親は騒がしいから外に出よと命じ反之小供が外に出ると親は危いから内に入れて叱る類で子供は仕方がないから雨垂れの落ちる軒端に立つてゐる外はない、或は折角子供の遊ぶ空地のある家でも、庭苔を踏ではいけない。

といふ風で目の爲めの庭はあつても足の爲めの庭はない、況して其庭にも大人丈が喜ぶ木を植ゆるも子供の喜ぶ木は植ゑぬ。自分は各家庭に不生産的にして而かも無趣味的植木を廢し、盛に果物を植ゆることを勧めたい。

其次に娛樂機關も亦然りて、市中の風上りは電柱に引かゝるから禁せられ、往來の遊戯は自動車に觸れるから止められ、さりとて活動寫眞も子供本位のものが無い爲め有害となり、偶々小供に相應する散步地があつても親が無精者である爲め伴うて呉れず、實に今日の社會は小供の八方塞である、何んとかこの風を改善したい。

最後に大切なのは虚偽と僞善の風を改善する事である。在來の生活には虚偽と僞善が多い、これを改善せざれば善良なる兒童は生れぬ。例之ば客が來れば主人は内に居ても取次に不在と云はせる、菓子や饅頭箱をあげて見ると外部の體裁は大きくてもあげぞこである。平生の言葉でも形式に過ぎる爲め荆妻とか豚兒とかいふ類は本人の本心から出た言葉でない、尤も斯る例は謙遜と思ふかも知れぬが、如何に謙遜とて人間の子を豚の子といふ如きは極端な風習である。要するに一事が萬事であるから精神的に悪影響を與ふる制度や慣習を改善したいものである。然らざれば理想的の國民を作ることとは不可能と思はれる。

(終)

## 森の幼稚園

すつかり御無沙汰をしました。讀者の方々も編輯の方々も、なにか書いてよこしそうなものだと思つておいでだろうにと思ひながら長い御無沙汰をつらけてしまひました。そのうちに此の國を去る日も近づいて來ました。歐羅巴へ行つたらといふのも、餘りあてにならないお約束です。こゝいらで一つ位おたよりをして置かないと、少々濟まないといふ様な氣もして來ました。旅には暮も師走もありませんけれどもね。(十二月三十日)

此の國へ來てから、幼稚園も大分見せて貰ひました。名に聞いて居たコロンビヤ大學の幼稚園も、シカゴ大學の幼稚園も、ゆつくり見せて貰ひました、よく見れば、ためにならないものはありません。こゝを拾ひ、あそこを拾へば、一つとして有益な資料でないものはありません。しかし其の中で、一何んと言ひませうか—私の一番好きなどでも言はせて頂きませうか、兎に角く最も私の心を惹いた幼稚園が一つありました。

シカゴに居た時でした。有名なミス・ハリスが校長をして居られるナジヨナル・キングダーガートン・エン

ニューヨークにて 倉 橋 惣 三

ド・エレメンタリー・カレッヂを訪ねました。その日の私の目的は保姆科の方の參觀でした。そして、どこを參觀しても何時も感じる様に、自分達が國でして居ることに、まだ足りないところの、いくらもあるのを思つたりしました。此の學校には生徒の實習の爲め幼稚科も勿論ありました。私はそれも見せて貰ひました。

その時、今まで亞米利加で見た幼稚園に就て、どう思ふかといふ様な話が出ました。大きい都會の幼稚園は自然味の餘りに少ないのが遺憾に思へると私は答へました。それが無理な注文であることは私もよく知つて居るのです。出来るのをしないのでなく、出来ないから仕方がないのであることもよく分つて居るのです。それでも私の心持は、さう答へざるを得なかつたのです。これは批難ではありません。誰でももの希望でせうと、私はつけ加へました。私を案内して校内を見せて下さつたミス・ヘンミングウ

エーは黙つてうなづいて居ましたが、若しお暇が出るのなら、ドーナ・グローブの幼稚園へ行つて見ませんか、あの幼稚園はきつとあなたのお氣に入りますと言ひながら、紹介状を書いて呉れました。私が此の國で一番好きな幼稚園を見出し得たのは實にミス・ヘンミングウエーの賜であつたのでした。

天氣のいゝ五月の或る日でした。朝はやく、シカゴのユニオン・デーパーからシカゴ・ブルミントン・エント・クエンシーの線を通りました。汽車は暫くの間、汚いシカゴの裏町を通つて居ましたが、やがて窓の前に、青い野が打ち展けて來ました。野についで丘が見えて來ました。丘を越えて林があらはれて來ました。林の間には小川もありました。私は久しぶりの此の田園の景色に、息のつまる様な心持ちをしながら、窓に近く倚つて、車の外を見つめて居ました。野のなだらかな斜面には蒲公英が敷きつめられた様に咲いて居るところもありました。やはらかい丘のうねりに沿ふて、放たれた牛の群の、靜かに草を食みながら歩いて居るところもありました。遠くつゞく林の未は霞む様に煙つて、白い五月

の空に連るのも見えました。汽車の進むにつれて、林の蔭にかくれては又あらはれる小川の流れの、ゆるやかに岸の草を浸して居るのも見えました。沿線の停車場も名も、そのどこか／＼の趣きにふさわしく呼ばれて居ました。野、丘、谷、小川、森といふ様な語がそれ／＼につけてありました。こんなことも時には非常に嬉しいものです。一時間ばかりして、私はドーナ・グローブの小さい停車場に着きました。

ドーナ・グローブは極く小さい田舎町です。停車場通りに、少し許り町らしい飾り窓の店竝がありましたが、それも數丁とはつきまますまい。人通りのゆつくりとした一筋町で、兩側の家の後ろは、直ぐ森になつて居るといつたところです。鐵道の踏み切りを越すと、往來の店さきに、牛乳のあき鐘を荷馬車に積んで、その御者臺の上に、粗い辨慶格子の服を着た若い血色のいゝ娘が、馬の手綱をひかへながら、お婆さんと呑氣そうに話をして居るといつたところです。しかし、貧しい卑しい町ではありません。後で聞くと、古い農家の多い町で、外來移民の少ない。昔から人氣のいゝ、健實な土地だといふことです。



私は寫眞のフィルムを買ふ序に、ある藥屋で、此の近所に幼稚園があるかと聞いて見ました。私はこんな曖昧な問ひ方では、多分わかるまいと思つて居たのでした。すると愛相のいゝ番頭さんが、幼稚園といへばあの幼稚園のことさと言つた風に、直ぐ其の道を教へて呉れました。それから、丁度店さきで徐ろに煙管をくゆらして居た隠居さんらしい人は、私といつしよにわざ／＼戸の外まで出て、此の通りを斯う行つて、あの白い家の角を右へ曲つてと、太い指で指さしながら、親切に教へて呉れました。

本通りから、教へられた運送屋の角を右に曲ると、そこはもう道の兩側が森になつて居ました。その曲り角の標柱に森通りシノストリートとあるのもうなづかれました。森の中には、廣い間隔をおいて、まばらに家がありました。その中の一軒、淡褐色の煉瓦建で、落ちついた品のいゝ家、私はそれを訪ねて見ました。森の中の小徑傳ひ、門もなければ、もとより標札もありません。これに相違ないとは思ひながらも、若し間違つたらといふ氣づかひもあつて、私はそつと戸口の前に立つて見ました。見まわして見ても、呼び

鈴がありません。私は裏の方へでも廻つて見ようかと思つて居ると、中から朗かな子供の笑ひ聲が聞えて來ました。私は、もう安心して、ドアを押しました。丁度そこへ、横の室から一人の若い先生らしい人が出て來ました。私は紹介狀に自分の名刺を添えて、來意を通じて貰ふ様に頼みました。

その若い先生が廊下を與へゆくと、少しゝて數人の男の子と女の子が、にこ／＼しながら私の前へ來ました。私はもう自分の幼稚園へでも來た様な氣がしました。そしてその子供達の後ろに、見るからに眞摯な、人なつこしいミス・マルセを見ました時、すつかり心やすい心持になつて仕舞ひました。

ミス・マルセは眞ぐ私の手を握つて、ほんごうに遠方から、よくまあ訪ねて來て下さいましたと、それも口數多くいはずに、もつと眞實な笑顔で迎へて呉れました。その心おきない態度には、人が人を迎へる眞率な親しみといふものが充ちて居ました。多分此の幼稚園は、參觀者といふものにスポイルされて居ないのでせう。否、いくら參觀者が多くあつても、一人々々を心から客として迎へ得る、やわらかな素樸な人間性が、此の人の裡に洩れない程に豊かにあ

るのでせう。私はその時こんなことを考へたのでは  
ありません。たゞ後から思ひ出して見て、まだ何も  
見せて貰はないでも、此の第一の印象が、此の幼稚  
園を私のすきな幼稚園にするのに充分であつたと思  
ふのです。私は自然味のある幼稚園を求めて来て、加  
ふるに人間味のある幼稚園を興へられたのでした。

ミス・マルセは、そこに居る子供達に私を紹介しま  
した。軽くかゝむ様にしては、此の方はね、遠い日  
本からいらしたお客さまですよ、一人々に丁寧  
に紹介して呉れました。子供達はにこやかに私を  
見て、銘々に其の可愛らしい小さい手を私に握らせ  
て呉れました。あの、しつとりとした、落ちついた、  
幅の餘り廣くない、天井の餘り高くない、光りの餘  
り明る過ぎない、人睦ましい廊下のさまが、今もな  
つかしい心持ちを誘ひます、そこには人の子を集め  
て訓練して居るといふ様な、よどんだ嘆ひは少しも  
ありません。幼児等を集めて、強めて遊ばせて居る  
といふ様な、わざとらしさの交る騒々しさもありま  
せん。私は、靜かに其の廊下を歩きながら、幼稚園  
に居て、幼稚園を忘れて仕舞つて居ました。

其の案内の仕方が、之れまた懇切と而して自然と

を極めたものでした。此の人は、ほどのよさといふ  
ものを一分も缺きませんが、少しでも超えてゆくこ  
とがありません。此の人には形式といふものは、ど  
こにもありません。それで居て、おのづからの心の  
こまかさに、ものゝ順序がちやんと立つて居ます。  
ゆき届いて居ながら、人のさきにゆきません。私を  
案内するの私について来るのか分らない様に歩き  
ながら、何か私が意をこめて、立ちどまる様なこと  
があるど、そつと暫く自由に放して置いて、頃のよ  
い時にまた私の傍へ来ては、靜かに私の問ひに答へ  
て呉れました。私は參觀に来て參觀に来て居ること  
を忘れました。

建築にも非常に細かい意の用ゐられてあるのを見  
ました。外から見た感じからいへば、普通の住宅と  
多く變りません。それも極く地味に、入口なども、  
わざと正面でなく、少し左よりの張り出しの傍に、  
葉の高い老樹の蔭に倚り添うやうについて居まし  
た。土地の勾配を上手に使つて、玄關から右が、氣  
のつかない様に低くなつて居ます。そこに、此の家  
の主要部が、出入參差、角の多い面白い設計を見せ

て居ます。

一層趣きのあるのは、内部の間取りです。玄関から廊下を奥へゆくと、中ほど右側に、上へ四五段下へ四五段の低い階段があります。上と下との廣間へ導かれて居るのです。私は此の階段のつけ方を、いひあらはし様もなく面白く思ひました。廊下を中二階風の位置に置いたところに、變つた味が出て居るのです。その階段のくひちがひ方も何となく謎めいて居ります。可愛らしい子供の足でどん／＼と上から降りて来て、くるりと後ろを見せて、そのまゝまた、どん／＼と下へ消えてゆく軽い足音のあとを追ふて、私は思はず、ほゝえまゝには居られませんでした。此の階段で導かれて居る上の方が幼稚園で、下の方が初等科(小學一年級と二年級)です。先づ上へゆきます。

階段のつき當りは、一寸した小さい溜りになつて居ます。その正面には、例のトイブネル版の大きい野の景色の繪が掛けてありました。その前に脚の高い小卓を置いて、白櫻の花が、陶器の花繻に投げ入れて活けてありました。右と左とにドアが開きます。ドアの内の廣い室です。木材は皆濃い栗色の

光澤のない塗りで、牀は厚味のある濃い茶色のオリエンタルラツグ、天井と窓かけとは稍々明るい淡茶色で、全體の色調が、如何にも、おつとりと落ちついて居ます。私は入口に立つたまゝ暫くおつと見入つて居ました。そこに置いてある小さいテーブルや椅子の類がすべて室と同じ調子の色をもつて居ることは言ふまでもありません。左右の入口の間一ぱいに、大きいピアノが置いてあります。

此の廣い室が八角の室であることは、暫くしてから氣がつきました。氣がついて見ると、私は一種の喜びにたえませんでした。遊戯室を中央に大きくとつて、それを放射狀に數個の小さい部屋をつけるといふ設計は私の長く机の上で描いて居た考へでした。後、岡山市の幼稚園で、此の考へに似たものを見出した時に、私の設計が實現出来るものだといふことの保證せられて居るのを喜んだのでした。それをまたこゝで見ようとは思ひもかけないことでした。私は自分の此の考へを、一度も自分で實現して見たことはありません。しかし、それを、もう遺憾のことゝ思ひません。こゝに私の考へが一層よきものになつて實現せられて居るのです。

八角の室は、取り圍む様に四つの窓をもつて居ます。その窓は二尺ばかり張出されて、高い一ぱいの硝子障子になつて居ます。私は、わざと硝子障子といひます。日本流の硝子戸でなく、アメリカ流の一枚硝子でなく、趣の深い細かい棧になつて居るので、私は此の硝子障子を前に、日のさし込んで居る。明るい張り出しの腰板の上で、人形の著物にアイロンをかけて居た、女の子の後姿が今も目に浮んで來ます。

四つの窓を挟んだ四つの面は、ピアノの處に立つて見て居るとして、正面がストーブ、右と左とが長四角の室になつて居ます。その室は、いづれも三方を明るい硝子障子にかこまれて居ます。右の室には、その日大形の牀上積木で家が出來て居ました。左の室には、中の窓一面に横廣い大きい水盤を据えてありました。小さい噴水が水面から一寸ほどの高さに噴いて居ました。底には、水草が青い葉を洗めて居ました、無器用な木片の舟が一つ、岸にくつついて、もやつて居ました。

中央の廣い室には、窓に近く小さい机が一つ、或は二つ、或は三つ置いてありました。椅子には一つ

一つ椅子蒲團が敷いてあるのが、澁い、暖い淡褐色の、中に東洋風の丸い模様のある麻織物で包んでありました。私は此の椅子蒲團を見て、思はず、いゝです。ねえと言ひました。ミス・マルセは黙つて笑ひながら、自分でも軽く、其の蒲團にさわつて見たりしました。

ストーブは古風な、造りつけの大きな爐です。傍に、くすんだ大きなふいごなどが懸けてありました。傍素より、全體の室温は他の設備でとる様になつて居るのですが私は、雪が此の森の家を埋めて居る日に、此のストーブに燃える明るい火を想像して見たりしました。

ストーブの兩側がドアーになつて居て、その外が子供の細工場になつて居ます。ストーブの後ろといふことが、如何にも細工場らしい心持を伴ひます。こゝだけは木切れ、鋸屑で程よくちらかつて居る中に、いろ／＼の大工道具などが置いてありました。下の室も、輪廓は大體之れと同じです。

其の日は金曜日でした。一週一度づつ、幼稚園の子供と、初等科の子供と、いつしよに集つて遊ぶこ

とにしてゐる日でした。案内されて下の間にはいつて見ると、三十人程の子供が、ラツグを敷いた牀の上に、可愛らしいあぐらをかいて、坐つて居ました。

前の方がずつとあいて居て、小さい椅子が不規則に列べてありました。やがて、上の廣間から、例の階段を幼稚園の子供が降りて来ました。初等科の小さい兄さん、小さい姉さん達が、にこ／＼しながら拍手をして迎えました。前の方にあけてあつた椅子はそのお客さん達の爲めでした。皆が坐につくと、静かなピアノの音が聞えて来ました。若い音楽の先生は、そのすらりツとした肩と脊とを見せて、キイに向つて居ました。私には何の曲とも知らない曲でした、多分名のある名曲なのでせう。音楽味の高いものでした。子供達も、酔ふ様にして聽いて居ました。

その一曲が終つてから、子供達の可愛らしい唱歌や、遊戯が始まりました。第一に數人の樂隊がありましてから、いろ／＼のエンターテメントの中には、幼稚園の女の子が、自分で縫つて來た人形の蒲團を小さな手に擴げて見せたりしました。初等科の或る男の子は、兄さんらしく手を半ズボンのポケットに入れたりして、自作のお話をしました。幼稚園

だけの合唱もありました。初等科だけの合唱もありました。その時には、互に喝采しあふのを忘れませんでした。其の日丁度、學校の組の先生がお休みとかで、この卒業生の小學三年生の女の子が遊びに來て居ましたが、上手なピアノを弾いてきかせました。皆は此の先輩の好意に對しても熱心に喝采しました。初等科の子供のインヂェン、ダンスには東洋のお客さん、すつかり感心させられて仕舞ひました。おしまいに、羊飼ひの簡單なメロドラマがありました。多勢の子供がぞろ／＼／＼／＼／＼ながら出て來て、羊の聲を眞似たりしました。二人の羊飼ひが枯枝をもつて、其の間を歩いたり、軽く羊を追つたりしました。可愛い、羊達は、時々人間の子供の様な聲を出して、笑つたりしました。

私は我國の幼稚園で時々見る、幼兒演藝會には、少しも興味をもつて居ないものです。それは、どうかすると子供の自然以上のものになり易いからです。しかし、此の日の此のあそびには、少しも、そのういふところがありませんでした。一週の終りの金曜日朝の朝をかうして皆で楽しく遊ぶといふ、その團樂の心持ち以上に少しのわざとらしい處もありませ

んでした。私といふ外國人の居ることも、少しも皆を意識的にして居ません。私のすぐ前に兩足を投げ出して坐つて居た女の子が、何か可笑しいことがある度に、私をふりかへつて見て、小指に細い指輪をした小さい左手で頬をおさへながら、ミソ齒を出して笑ふのが、如何にも面白くてたまらないといふ様でした。

此の團樂が終ると、ミス・マルセは私をつれて外へ出ました。初等科の細工場の後から、屋根なしアスファルト敷きの小さいバルコニーを通つて地へ降りました。そこは、たゞ森の中でした。森の中といふ外に、ほんとうに何もありません。お庭では勿論なし、遊園といつた様のものでありません。地は自然の高低のまゝに、草は自然に生ふるまゝに、何一つ造つたところがありません。私は、田舎家の裏とでもいふ氣がしました。だら／＼と低くなつて、細い溝川に近い處に、鶏小舎がありました。その少し離れた處に、屋根の低い豚小舎がありました。その日は豚は居ませんでした、内部はきれいに整頓せられて、子供用の小さい鍬や鋤が釘にかけてありました。子供達は朝來ると直ぐ、或るものはお部屋の

中を片づけ、或るものは此の小舎へ来て、餌の世話をしたりすることになつて居るといふ話でした。家の眞裏の邊に、ブランコと砂場とがありました。幼稚園の遊園らしいとでもいふものは、此の二つだけでした。しかも私には、その傍に、今を盛りと咲き亂れて居る白櫻ホワイトチェリーの大木と、垣根も塀もない廣い草地を隣りの家の方までつゞく曲りくねつた道の方が、どの位目をひいたかも知れませんが、木立の中には野梅ワイルドプラムも咲いて居ました。

私達は、その裏口から廊下へ上りました。幼稚園の子供が十人餘り、コート室で靴をはきかへて居ました。そこには小さい籠だの箆の様なものが幾つかありました。草摘みに行くのだといふことでした。廣間の方へ行つて見ると、残りの子供達がしんとして遊んで居ました。窓に近いテーブルでは數人の子供が、うすねづみ色の畫用紙に、ふといクレイヨンで繪をかいて居ました。ある机には繪本が澤山散らかつて居る中に、一人で何か讀んで居る子がいました。ある机では、若い先生と差し向ひで二人の女の子が頻りに鍬を使つたりして居ました。その他、小さい方の室にも、こゝに一どかたまり、あすこに

一どかたまり、小さい自然の分園をつくつて居るの  
でした。自由に話もして居ます。自由に笑つても居  
ます。それで居て、少しのざわついたところがあり  
ません。時々、室の中を急ぎ足に歩いてゆく子があ  
りますが、厚いラツグの上にコトンとも音がたちま  
せん。ある机には高い花轡に、白林檎の花が房々と  
活けてありました。ある机には硝子の平鉢に、濃い  
紫の堇と、くつきり抜ける様に白い杏の花とが浮べ  
てありました。子供はその側を軽やかにゆき來して  
居ました。

私は此の日幼稚園と初等科とで觀た一々の教育に  
就て、細かく書いた方がいゝのかも知れませんが、ま  
た一つ／＼書くだけの價値は充分にあること許りで  
した。殊に、初等科の方のことなどは、いくら書いて  
も盡きない問題があります。しかし、それには長  
い理論もつけなければなりません。それは今の私の  
時間のゆるさなことです。今はたゞ、幼稚園と小  
學一、二年級とを特に一つにして、全く同じ空氣の  
中で教育して居るといふことだけで、賢明な皆さん  
の判断を乞ふて置きませう。尤も之れは此園では新

らしいといふ程のことでもありません。私達も國に  
居る時から考へもし説きもしたことです。たゞ、こ  
こでは、それが如何にも自然に、且つ徹底的に行はれ  
て居ます。私が特に此の幼稚園を記憶するには、此  
の點も大に加はつて居るのです。お話が前後する様  
ですが、此の幼稚園は元來、幼稚園キンダーガールン普及協會  
で建て、居るのです。そしてそのエキステンション  
といふ意味は、初めは幼稚園を世の中に普及させる  
といふころでしたが、今は寧ろ、小學校初級の教  
育に幼稚園の原理と精神とを延長させるといふこと  
にあるのです。此の話が出た時に、穩かなミス・マル  
セの口調にも、強い主張の閃きがありました。私に  
とつても豫てからの主張です。しかし、それは又別  
に論ずべき日がありませう今日はやつぱり、自然と  
人間とのお話をもう少しつゞけさせて頂きませう。

私は初等科の細工場の傍にある、先生の書棚の中  
に、教育書や博物學の書物の間にまちつて、トロ  
の四季日記集のあるのを見つけました。そして、丁度  
そこへ來合はせたミス・マルセに向つて、ありますね  
と、指さして見せました。ミス・マルセは何ですかと

いふ様に硝子戸に顔を寄せて見て、例の言葉少なに、いゝ本ですねと言ひました。これは私の最も好きな本の一つです。私は早くコンコードに行つて、トロの愛した自然が見度いと思つて居ます。しかし、今日は、長く自然に餓えて居た私の心が、汽車の沿道からして、すつかり充たされました。こゝに來てからは、此の森の景色が、どの位私を喜ばせたか分りません。こういふ處に毎日ゐらして、あなたは、ほんとうに幸福です。ねえミス・マルセ、あなたはそうお思ひになりませんか。――斯う流暢にいつたかどうか分りませんが、何しろ今朝から久し振りの自然に張りつめて居る私の心は、トロ集を見るに至つて抑へきれなくなつたものと見えます。ミス・マルセは、此の先生若いなど思つたか、話せるなど思つたか、一寸うなづいて見せて、ほんとうに、自然はよく御坐いますねと、矢張り言葉少なに答へました。子供達が歸つて行つた後でした。私はお暇をしようとして居ると、ミス・マルセは、まあ、なにも御坐いませんが、皆で御いつしよに、お晝を頂きませう。その前に、お好きな森の方を少し歩いて來ませう。お外套はこちらでしたねと言ひながら、自分も奥へ

行つて無造作にコートを着て先きに立ちました。

西洋の婦人の年齢をいふのは失禮だそうですが、此の人は、お母さんとすれば中學上級位の息子さんのあつていゝ年輩です。氣持ちのあかぬけた、容子に少しの氣どつたところもない、叔母さん／＼した人です。さつさと森の間の小徑を歩きながら、時立ちどまつては、私の問ひに答へて、草や木の名を教へて呉れました。森の少し開けた處には、小高い丘につゞく廣い牧場もありました。森が再び深くなつて、道の少し濡めつた低いところには、水際の見えない平な地がありました。向ふは次第に高い斜面になつて、木深く森がつゞいて居ました。池の傍には、うす挑色のスプリングビューチャーが一面に咲いて居ました。その上には梢越しの日光が、いろ／＼の陰影を投げて居ました。私はよくこの邊まで一人で散歩に參りますといひながら、夏は夏、秋は秋でそれ／＼かはつた趣きのある話も出ました。殊に冬の雪が一面に森も池も埋めて居る時が好きですといふ様の話も出ました。私は此の叔母さんが、どの位詩を解して居る人か知りません。殊に、その言葉使ひは、少しも所謂文學的ではありません。しかも森の



中を斯うして、いつしよに歩きながら、此の人の心には、詩が何も特別のものとして離れて居ない程に、詩に富んで居るのではないかといふ様な氣がしました。

歸つて來ますと、若い先生達が玄關に迎えて呉れました。そして、子供の部屋の窓に近く、幼児の机を置いて、雪白なテーブルクロスをかけた二つの食卓が出来て居ました。一人の先生が、こゝは子供の家ですからと言ひながら、小さい椅子に私の席を與へて呉れました、同じ食卓についたのは、私を入れて五人でした。私の向ひに坐つた初等科の主任の方が、私によく話かけて呉れましたが、他の若い先生方は餘り多く口數をきゝません。私はセロリを取りながら、ふと窓の外を見ると、可愛いゝ女の子が一人で、森の中を幼稚園の方へ歩いて來て居ました。あの子とは問ふと、午後の組に來るのですと、主任さんが答へて呉れました。あの子は此の室にはいると、きつと、びつくりしますよ。いつも見なれない熊が來て御飯をたべて居ますから、と言ひますと、別の食卓の人達まで、聲を立てゝ笑ひました。一人の若い先生は、ゴールデンヘヤーが驚くであるであ

らうと口輕に言つて、又笑つたりしました。それから食卓が賑かになりました。私も冗談がいひ易くなりました。私は十年ばかり前に、森の幼稚園といふ小篇を書いたことがあります。それは私の架空の幼稚園でしたが、今私は此の幼稚園に、同じく森の幼稚園といふ名をつけることに、さつきから一人できめて居ますと、言ひましたら、ほんとにね、と言つて皆も笑ひました。

食後、私は各室の額を見て歩いて居ますと、ミス・マルセが、之れから子供のテストをしますから一寸失禮します。何でしたら御覽下さつても差支へありませんといふことでしたから、其の部屋へ行つて見ました。テストはテルマンのインテリゼントテストを使つて居ました。それに別に變りはありませんが、此の部屋の空氣は、心理學的テストまでも、頗る詩味を帯びたものにして見せました。實驗者は、あつさりした白い練絹の服の上に、藤色の絹絲で編んだ薄いスエーターを重ねて、黒い紐で銀の讀書眼鏡を頸からさげて居ます。其の前にて机を挟んで腰かけて居る小さい被験者は、緞茶の服に、赤い格子縞の子

クタイをして、房々したブロンズの髪が耳のあたり  
に形のいゝ渦をまいて居ます。實驗者は紫と黄とに  
塗りわけた短い鉛筆の、小さい茶のリボンのくゞり  
つけてあるのを手にしながら、型の如く順々に問ふ  
ては、ちよい／＼と書きつけて居ます。被験者は、  
その利口そうな横顔に、先生が變なことを、次から  
次へお聞きになるのが可笑しくてたまらんといふ様  
な口もとを見せて、はき／＼と答へて居ます。室は  
ミス・マルセの自分の部屋と見えます。大きなどつし  
りしたデスクが部屋の一方を占めて居て、その上には  
小さい藤の平籠や、銅製の立て曆などが置いてあ  
る中に、たつた一輪さしたチューリップが、あの愛  
くるしい色を見せて居ました。壁際に寄せて置かれ  
た本立てには四五冊の本が格好よく列んである間  
に、去年出たドリンクウオーターの新らしい詩集も  
ありました。ドリンクウオーターは此國の現代抒情  
詩人の一人で、人間味の多い新らしい詩を書く人で  
す。私は其の淡紅色の紙表紙の背に、あつさりポエ  
ムと書いてある瀟洒な装釘を見ながら、はゝあ、  
此の室の主人は果して、こういふものを愛讀して居  
る人であつたかと思つたりしました。

幼稚園は人です。つまり先生の人柄です。

### ○計畫のいろ／＼

△煙草專賣局で乳兒保育所を新設

煙草專賣局は全國を通じて數萬の女工を使用して  
ゐるが寄宿を廢し全部通勤制度を採用してゐるので  
従つて女工も支局所在地附近で多數集めようとする  
れば未婚婦人許りでは其需要を充たすに足らないので  
既婚婦人も可なり多く約三四割も占めてゐると云ふ  
が家庭に於ける勤めと女工としての生活を如何に調  
和せしむべきかは問題で專賣局では今度その解決方  
法として新たに乳兒保育所を設置する方針が成立つ  
て其第一著手として淀橋專賣局内にそれを新たに設  
置する事になつた右に就て同局今井職工係主任は  
『此處には約三千人の女工が居りますので子供を持  
つて居る者も可なり多い様であります乳兒の保育所  
は今迄は公に設けてあつたのではなく休憩室に三十  
人許りの乳兒を集めて二三人の子守女を雇つて其世  
話をさせて居たものです今度擴張する必要に迫ら  
れて來たので舊食堂跡に新築する事になり既に設計  
まで出來てゐますが近々建築を始めようと思つてゐ  
ます』と話してゐた。

## 米國に於ける兒童福祉事業の新企畫

文部省社會教育調査室 高木光之介

最近米國に於いては、兒童福祉増進事業に努力して居ることは、何人もよく知る處であるが、今回新に全國に於ける此の種の團體の聯合會が設けられて、一層その發達に努力することになつた。我國に於ても此の種の運動努力が漸次大となつて來たのは誠に慶賀すべきことであるが、更に聯絡統一してその事業の振興を圖る必要があると信ずる。今その參考の一助にもと思つて、米國に於ける此の現状を紹介する次第である。

米國に於ける兒童福祉上最も意義ある一大發展は、兒童救濟會相互間の報告交換局に對して、尠くとも、四ヶ年間に維持して行ける丈の資金が國庫から支給せられたことである。この事あるがために家庭的社會事業が家庭幸福の爲めになした一種の奉公を、兒童福祉會に利用し得る奉仕會を組織する事が出来るのである。この報告交換局の局長に任命せられた、シーシーカーズトン氏は彼が十四ヶ年の長きに渡つ

て、マサチューセツツ州の兒童虐待防止會の祕書として得たる多年の豊富なる經驗と、又この方面に於ける國民的指導者の一人としての大なる興望とを雙肩に擔つて、その衝に當つたものである。

偕て、該局の起源は一九一五年バルチモアに於て開催せられた慈善竝に矯正に關する國民會議と連絡を取つて開かれた兒童救濟會代表者の非公式な商議會に、その淵源を發して居る。而して、該局設立の目的は那邊に在るかと言へば、各地各様の兒童の福祉に關係する協會の報告及刊行物の交換竝に之に關する社會奉仕の爲に組織せられたものである。今やその會員は、該事業に興味を有する機關の代表者を以て組織し、其の數は合衆國及びカナダを通じて六十五名を算する盛況を觀る状態である。是等は私立の兒童依託所、看護會、兒童保護所とか、又兒童看護の爲め、公の機關を設けて各々其の事業發展のため致々として倦まずに働いて居る。而して斯様な

澤山の兒童福祉に關する公私の諸機關が綜合されて、一個の局と云ふものを組織して居るものである。斯の如くして該局の組織者は全國を通じて兒童看護に興味を有する所の代表者であるが故に、その會は全體の兒童福祉に對して、至大なる影響感化を及ぼすべき使命を有して居るといつてよい。

カーステン氏就任以來該局の發展は、格別顯著になつた、例へば兒童看護の活動が或る基本的感化の必要を高調してその取扱つてゐる事項に於ても、また其の方法手段に於ても、多様になつたといふことを見ても明らかである。概して、色々異つた代表者は兒童看護の原理及び手段方法が地方の必要に應じて殖えていつて、各々それ自身の標準を向上發展せしめたのである、その結果は同一事業を爲しつゝある代表者の間に於てすら方法上の大なる相違が存在して居るといふ次第であつて、方法又は結果を試験したり比較したりする様な試は餘りなされなかつたのである、然るに該局を組織せる代表者は、自己の缺點をよく知つてその事業の成績を擧げようと努力し、その事業を分析し研究する事に没頭したのである。彼等は亦その事業が可なり満足の状態にあるに

も拘らず、その間に採用してゐる所の事業報告を記録する方法が誤用されて居るが爲めに進歩を圖る事は不可能であり、又各々異つた組織である爲に相互の成功及び失敗等から何物かを學ぶ事は出来ないといふ事を感じた。該會は結局色々な代表者の經驗が他の總ての者に利用し得られるやうにするために今の事業報告に關して、比較し得られる様な記録方法を起さん事を希望したのである。彼等はその間に在る所の標準を一層高尚なものに、即ちより一層徹底的に事業を計劃し且つ統一的な術語及び方法を用ふることを奨励するのを希望した、何處へ行つても用語の使用がまち／＼で何等の統一がないといふ事は頗る明白な事實である。例へば紐育に於ては "Child Rearing" といふ言葉は小供を自由な而して滋養分に富んだ家庭に置くといふ事を意味してゐる、然るにマサチューセツツに於ては、此のチャイルドプレイングといふ言葉は斯様な自由な場所に置くといふ事に適用されるのみならず、同様に子供を下宿屋へ入れて置くといふ事にも廣く適用されるのである。又 "Child Welfare" といふ言葉の使用も目下の處實に混沌として何等極りが無いといふ次

第である、同一様な會の間にもその採る方法上大なる相違がある、即ち二三の會などに至つては、他の會が大なる防止的事業を爲してゐるにも拘らず、他の會は家庭不和とか家庭内の困難等の根柢に横はる原因を芟除する事に努め、斯くして子供を移すといふことよりも寧ろ環境の不満な件を移して其の環境を子供に適應する様にするなど、前者が消極的の事業に力を致して居るのに拘らず、後者は全く積極的手段に出で著々として其事業に務めて居るのである。

又兒童を彼等の家庭から下宿等といふ様な所へ移すと云ふことに於ても、單に通信に依る好都合の家庭の調査をするのもあれば、家族に關する必要な報告を傳へようとする友人とか、隣人とかに對して同様の會の代表者が親しく家族を訪問するといふ事に到るまでの色々な手順とか手續とかいふものがあるのである。或る二三の會の如きは他の會が依託兒を承認して受入れるに先立つて、先づその會の代表者の調査がない場合は、何うしても同説を主張して兒童の依託を承認せないのにも拘らず、公衛とか又は之に協同して居る會の推薦があると云ふと、直ちに兒童の依託を受入れると云ふ状態である。

扱て、此等の總ての多種多様に互る方法及び標準は看護のもとに來らんとする兒童等の福祉の爲に必要なものを正確に決定する爲めに研究して見る必要がある。監理者も又彼の部下の者も斯様な研究をする事には喜んで手助けをするのである。而してこの研究といふ事は先づ第一に今迄成された事業の研究、使用せられたる方法の調査及び事業の日常の取扱方を改良せんとする努力等を含んで居る。

會が成立すると報告交換局では、その成立を許容する前に或る資格とか、條件とかを具備して居るや否やを問ふのである。其の條件の重なるものを示すと次の如くである。

(一) 若しそれが個人的な會であるとすれば、少くとも十五日間置き位に會合する所の責任ある委員に依つてそれが取扱はれて居るかどうか。

(二) 若し其の會がなすならば、それを記録して置くかどうか。

(三) 事業を有爲にするならば、其の事業の價值がその爲に消費せられたる金額と同様な仕事をするかどうか。

(四) 其の會が社會奉仕に對する一致といふ信條の

下に、局の他の委員と心からして協力することに同感であるかどうか。又出版せられたる凡ての文書を局へ贈送するに賛成であるかどうか。

(五) その會は或種の兒童に對する社會事業に従事して居るかどうか。

(六) 若しそれが私設のものなりせば、果してそれがよく團結一致して居るかどうか。

(七) それは其の事業の報告をまとめて適宜に合理的に發表するかどうか。

(八) 會が有給の、而して訓練せられたる理事者、實際家を有するかどうか。

(十) 會がその組織と財政上に於て永久的な確信を與へる様な方法で建設せられたりや否や。

本會が現在の名稱によりて一層の適當したる名稱の選擇は未だに決定して居ないが、アメリカ兒童福祉同盟會(The child welfare League of America)といふ名が、最も有望に考へられて居る。又其の本部をウオシントンに置くべきか、シカゴに置くべきか、又はニューヨークに置くべきかといふことも決定して居ない。アーステン氏は一九二一年一月一日から彼の務を開始するであらう。

以上は大體サーヴェ誌の記載によつたのであるが恐らくは今後米國兒童福祉増進に關する事業は非常なる發展を表はすであらう。

### 〇判りにくい乳兒の病

感冒による子供の發熱、苦惱は誰でも直氣付き易いが、此頃幼児の間に素人には不明の熱が出て親々を心配させる事が少くない、確な醫者に見せれば未だしも其儘に放擲つて遂取返しのつかぬ結果となる場合もあるが其不明發熱の原因中此頃最も多いのは中耳炎耳腔デフテリア、咽頭扁桃腺炎等である、乳兒の中耳炎は最も罹り易い病氣で初めは左程でもないが甚だしくなると發熱して泣き續ける、其時外部的に何か異變があればよいが迂濶に過して危険に導く、だから乳兒が理もなく泣いて發熱した場合は先づ中耳炎と目して醫師にかゝる必要がある、耳腔デフテリアも中耳炎同様危険である、唯此方は發熱も低く苦惱も割合に少いから一層知り難いが、鼻が詰つて鼻血が出るのが昂進の特徴である、咽頭扁桃腺炎は軽い熱を出すのみで、苦痛を訴へず此病氣だけなら大した事もないが中耳炎を併發する憂ひがあるから早く治さなければならぬ、是等病氣の原因は種々複雑な關係もあるが先づ此頃ならば風邪引かせないことが肝心だ、尙此頃子供に多いのは呼吸困難を來す病氣でそれは咽喉膿瘍と喉頭下腔浮腫とである後者は夜間睡眠中に呼吸が苦しくなる爲に突然ビヨコンと飛び起きて又間もなく寤て了ふといふ妙な症狀を呈する、矢張り危険な病氣である、今一つ氣付き難い乳兒病は乳兒脚氣で特徴は乳兒の聲が嘎れることで是は却々治り難くしかも危険極まるものであるが母親が脚氣に罹り乍ら母乳を哺る場合に起すものである(醫學士小野鐵造氏談)

# まゆだまに就て

女高師附屬幼稚園保姆 坂内 ミツ

元日のお式が済むと幼稚園の門からにこ／＼と出てくる多くの幼児を見ました。その顔の輝いて居るのはたゞお正月が嬉しいためばかりではなく手に持つて居るまゆだまに抑へきれぬ嬉しさがあるのであります、精巧に出来て居るたゞみ紙や貼り紙や織紙をさげて多数の幼児に與へらるゝ先生の努力は金銭に換へがたいものがあります、誠に其誠意努力には敬服せざるを得ません。幼児は確に其誠意を充分に受取つて居るに相違ありません。私は其喜んで居る顔を見ては私も自分の幼児達を喜ばせてやり度くなりました。扱て實際に造らうと思ふとなかなかの仕事です。一組三十人、一人にさげるのが少く見て十ケとしても三百造らねばなりません。一つを造るにも幾分といふ時間がかかります。柳の工面から、球をつけるから、全部を造り上るには大した時間になります。幾日前からか準備をして放課後を費さねばなりません。幼児を歸してやれ／＼と一息入

れる間もなく、明日の準備は勿論來週や其先きの事にまで氣を配らねばならず、その外の雑用で四時迄も五時までもかゝるのが常であるのに、其上にまゆだまをつくるのに時間を費す事は日の短かい暮の仕事としてはなか／＼の難事であります。さればさて幼児の居る間はそんな方に心を用ひて居るひまはありません、又その爲に幼児に接する時間をさくならば何の役にも立ちません。其形に表はれない大なる損失は形に表はれた小なる利益によつて償ふ事は出来ません。又幼児も出来上つたものをいたゞくより自分等の力でつくつたものであつたならば一層興味を持つてはあるまいかと考へた末殆んど全部を幼児につくらせる事にしました。

お目出度ものばかりではなくなりますがなるべく因あるもので幼児の方に叶ふものを選びました。先づたゞみ紙では鶴、龜、竹、風船、富士山など、貼り紙も鶏、梅の打板や福壽草を截らせて貼りつけさせ、

鉄を用ひてはだるまやおかめの面、羽子板、短冊など幼児の喜んでつくり得るものだけにして、一の組には織紙を加へ、二の組にはつなぎ方もさせました。これに先生のつくつた梅や奴の組紙などを加へましたので可なり賑かなものになりました。これは三週間にも互る材料になりました。殆んど毎日一つづつにつくりては自分の枝にさげさせました。幼児は喜んで一日／＼と賑かになつて行くのを樂み登園しては其下にはせ行き今日は何をさげるんですとせがむ人が多くなりました。この仕事をして居る間に次のやうな利益と困難とを感じました。

一、幼児が目的を以て作業する事。

年中行事の内には七夕だの節句だのと其目的に向つて努力する事は澤山ありますが毎日絶えず目的細目によつて生活する事は困難があります。まゆだまは極めて自然に適切に行はるゝと思ひます。

二、繼續する仕事に興味をもつ事。

幼児は現在の一時的であります、幼児の生活は其結果がどうあらうとも現在して居る事に興味を持ち其時を愉快に過せばよいのでありますが、又、一方或仕事に對して繼續的に努力する事も亦必要

な修練と思ひます。幼稚園の生活には比較的後者を考へる機會が少ないやうに思はれます。

三、色や數の觀念を明にする事。

それが無理でなくわざとらしくなく、幼児お互にいろ／＼と話し合つて居る間に自然に其効果を收め得る所に妙味があります。

困難と思つた點は。

一、各兒の柳の枝を室内に飾りおく事。

二、毎日の準備に多忙なる事。

自分がつくるよりは却て骨の折れる事もありません。だるまや羽子板などは畫用紙に色紙をはりそれに謄寫板で輪廓を書いてやりました。なるべく根本から自分等の手でつくるやうにとめました。

三、あまり長く繼續する事は興味を薄くする嫌あり。以上の事柄を參考として本年はもう少し考へてつくりませう。要するに私の考へは保姆の精力を上手に有効に善用したいといふ事なのです。何事によらず徒勞を省き精力を節減し、より以上の方面に有効に使ふ工夫をしたのであります。現在の幼児教育に於ては此點に工夫すべき餘地があるやうに思ひます。



○東京女子高等師範學校保育實習科生徒募集

東京女子高等師範學校保育實習科の生徒募集の件は、一月下旬の官報に發表になりました。

本年の募集地方は左の如くの由。

朝鮮、關東省、東京、京都、兵庫、長崎、埼玉、群馬、栃木、三重、静岡、滋賀、長野、福島、青森、秋田、石川、鳥取、岡山、山口、徳島、愛媛、福岡、佐賀、宮崎。

因に入學手續は當該府縣知事に問合せのこと。尙府縣知事の推薦による右入學に關する願書は來二月二十迄に東京女子高等師範學校に到達の日取とすること。その他、左のことも申添てあります。

- 一、資格：當校保育實習科規則第七條に依る資格を有し、現に幼稚園に奉職する者、又は修了後直ちに奉職の見込ある者。
- 一、實習期間は、大正十年四月十一日より同十一年三月下旬まで一ケ年。
- 一、生徒は通學のこと。

○第二回全國教育雜誌記者大會

豫記の如く同會は一月十五日より三日間、東京神田明治會館に於て開かれました。澤柳政太郎氏議長席につき開會、三日間に亙つて種々討議するところありなかくの盛會でした。その中心問題たる

「小學校教員俸給國庫支辨」のことは左の如く決議せられました。

決議

本大會は小學校教員俸給の國庫支辨を必要と認め、速に之を實現せん事を期す。

大正十年一月十六日

第二回全國教育雜誌記者大會

理由

一、義務教育費國庫負擔ハ國民教育ノ本質ヨリ見テ當然ナリ  
國民教育の眞精神は次代の國民をして前代の文化を公平に繼承せしめ以て國民各個の幸福を増進せしむると同時に國家生活の進展に寄與貢獻せしむるにあり。國家がかゝる目的の達成を望み且つ國民に對して此意味に於ての教育を受くることを命ずる以上その費用の大部分は當然國家之を負擔し、國民に對して教育の機會を均等に附與せざるべからず。第三十九議會に於て義務教育國庫負擔法が可決せられたるは既に此の主義を認めたるものと云ふべし。

二、義務教育費國庫負擔ハ世界ノ大勢ナリ。

歐米諸國の實例を見るに初等教育の多くは義務教育にして其經費の大部分は國庫に於て負擔せり。

國名	初等教育費總額 (單位千圓)	國庫支辨額	總額に對する國庫支辨の%
英國	一九一、九一二〇	五三、二、五二六	三、八八、四二五
佛國	一九一、三一一四	一一三、六五五	九〇、〇〇〇
普國	一九一、一一二	一〇六、〇〇〇	六三、六六七〇
米國	一九一、六一七一	八二、九六〇八一	一一、一六、七八二
日本	現時	一五〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇

即ち米普兩國に於ては初等教育費總額の六割、英、佛に於ては同じく七割以上を國庫に於て負擔せり、而も我が國に於ては僅かに七分に過ぎず。

三、義務教育費國庫負擔ハ地方經濟界ノ實情ヨリ見テ最モ緊要ナリ。

從來と雖も義務教育費は市町村經費の大部分を占め、多きは七割少きも四割を下らざりしが昨年七月小學校教員俸給令の改正に伴ひ一般の増加を見たり。而も昨年來經濟界の變動は地方財界を萎靡せしめ爲めに徴税不能の故を以て或は一時教員給の支拂を停止し、或は一般教育費に於て極端なる切詰を行ひ争ふて給料低き教員を雇入れんとし或は缺員を生じたる場合容易に之を補充せざる等悲しむべき實例夥しとせず。經濟界の變動が直に斯る影響を教育界に及ぼし教育者をして常に不安の念を懷かしむるが如きは國民教育上誠に憂ふべき現象なりとす。最近心ある町村の理事者が決然起つて全國町村長會を組織し以て本問題に關する請願運動を企畫しつゝ、あるが如き又以て本問題が獨り教育社會のみの問題にあらざるを知るべし。

四、義務教育費國庫負擔ハ年來ノ輿論ナリ

我が國に於ては明治十九年二月義務教育制度實施の時より義務教育費を國庫負擔とすべしとの議論ありしも遺憾乍ら之が實施を見ざりしが二十八年後の第三十九議會(大正三年)に於て漸く義務教育費國庫負擔法案の提出を見るに至れり。同案の精神は當時の全國小學校教員俸給の總額約四千萬圓の半額貳千萬圓を國庫負擔とすべしと云ふにありしなり。此の提案は主義として議會の協賛する所となりしも、國費多端の故を以て暫く其半額、壹千萬圓を國庫負擔とし、追て適當の時機に於て更に増加する事に決したり當時現文相中橋徳

五郎氏は衆議院に於ける該法案委員長として時の文相岡田氏、藏相勝田氏に迫り次年度に於て之が増額に努力すべきことを言明せしめたり。されば當時の立法精神を實現するのみにても、現俸給總額壹億圓の半額五千萬圓を國庫負擔とするに至當とすべし。然るに今や輿論は前記の諸理由に依り小學校教員俸給全額を國庫の負擔とするに非ざれば到底満足せざるに至れり。

#### 五、結 論

以上の四大理由を總合すれば義務教育費中小學校教員俸給全額を國庫負擔とする必要自ら明白なり。幸に本問題の解決を見れば、舊に義務教育制度施行の精神を貫徹し得るのみならず、貧弱なる町村も安んじて國民教育を完全に行ひ得べく教育者の地位の安定と其の待遇の公正とを期することを得べく、更に地方費輕減の結果は補習教育の改善殖産興業の進歩等幾多國力發展の方策を企畫する餘裕あるに至るべし。世には「事情尤もなれども費用の出所なし」と云ふものあり。これ不通の論なり。苟も教育の尊重すべきを知らば拾六億の國費を支出する我國に於て、而も文化の宣揚、教育の尊重を叫ぶる今日、國費の四割七分を軍事費に支出して、其の八分の一にも足らざる教育費を支出し得ざる理由何處にありや。

#### 實行方法

一、實行委員をあげ政府當局並に兩院議長政黨首領を訪問すること  
二、全國市町村長會と交渉し小學校教員俸給國庫負擔期成同盟會を組織すること  
三、演說會新聞雜誌上の論議等に依りて機運の促進に努むること  
四、本會出席の各雜誌記者より其地方選出の代議士に向ひ右決議案實現の爲め努力するやう要求し更に出席せざりし各雜誌記者に對しても同様の手段を取られるやう依頼すること。

## 幼児の、う、その研究

黒 瀨 艶 子

### ○幼児のう、そは罪のないう、そ

子供は正直なものであるとは、よく申しますが、子供のいふ言葉はまたなか／＼あてにならぬことが多いものです。先達もあるお母様が「うちの子供はこのごろ大變虚言をつくようになりました。ちつともいふことがあてになりません。宅では誰もうそを教へるものがありませんのに、どうした事でせう。あれでは行く先が案ぜられます。蝶々がとんで居もしないのに『母さんー、ホーラ僕の手の中に綺麗な蝶々があるよなど』申します。本當に困つてしまひます」とひどく心配してお話になるのです。かういふことは子供の心の發達の道程に必ずおこることです。我々大人の考へるような、故意な、道德的なうそではありません。三四歳のころから小學校へ行く頃までの、幼児の發達を考へて見ますと、ことにも五歳頃になつて想像の盛な時期になれば、子供が夢の

様なことを言つたり爲たりするのは何の不思議もありません。次に幼児のいふう、その場合を少しあげて見ませう。

### ○遊戯の上にはあらはれるう、そ

幼児が何々ごつこ、ごといつてする遊びは、事實といふ事を標準にすれば、うそに相違ありません。兵隊ごつこをする、商賣ごつこをする。または椅子にまたがつて「お馬どう／＼」といつたり木片をかついで鐵砲のつもりになつたり、布團を背負つて「ねんねんよ」と赤坊をおぶつたつもりになつたり、これらは皆、幼児のつよい想像から來るもので、罪のないうそであります。子供が木の葉や紙片をもつて來て「母さんこれ百圓紙幣よ、これを持つて坊のお店に買ひに來て頂たい」といつても誰もうちの子供は紙幣偽造したといつてなげいたり叱つたりは致しません。子供遊びはうそ、そといへば皆うそですが所謂ごつこ

で真似であつてどがめたり罰したり出来ません。

○う、そ、こしらずにいふうそ、

想像の全盛の時期には幼児はよく晝夢ダイドリームにふけるものであります。夢といへば眠つてゐる時にみるものですが、晝夢とは眼覺めていて見るので、子供にはよくあります、春のしづかな日に縁側に兩足をなげ出して日向ぼつこしながらヒラ／＼と散る櫻をうつとりと見つめてゐる稚兒が何やらわけのわからぬ歌をうたつてゐる時などはこれです。よく幼児がボンヤリしてゐる、ポカンとしてゐると思ふ時がありますが、かうした時に子供は晝夢に耽つてゐる事が多いのです。これも想像のつよいために來ることで、一人子でお友達のない子供が假空的小お友達を想像して話しかけて見たり、とんで居もしない蝶々を眼に見るようにゑがいて見たり、お伽噺からうけたつよい印象がもとになつて、「うちの臺所に昨日大きな熊がノソリ／＼とはいつて來ましたよ」とか「昨日僕大きな／＼飛行機にのつてお月様のところへ行って來たの」など、途方もない事をいふ事がよくあります。かうした事は、皆これうそ、こしらずにいふうそ、

でさういつて居る當の子供はうそをいつてゐるといふ意識は勿論ありません、それを大人はさもわざといつたといふようにびつくりして「うそ、ばつかりいふ」といつて叱りますが、叱られた子供は何故しかられるのか一向合點がゆきません。それもその筈で夢と現實の區別がついてゐないのですから。

夢といへば、子供は晝夢ばかりでなしに夜分眠つてゐて見た夢を本當と思ひ込んでゐる事がよくあります。夜中に俄かに泣きます。ゆりおこして譯をきくと「今姉さんが私のお人形の頭をむしつた」といふ。「坊はまたねぼけたのね」となだめてもすかしても之を本當にしてきかない。お人形を眼のまへにもつて行つて髪の毛の安全を證明してもまだしばらくは怪訝な顔をしてゐるといふことがあります。嘗つて私の受持つた組の丁子さんがある朝幼稚園に來ると、しきりに私の顔を見つめてゐます。「お早うございます」。といひながらも何だか袖にまつはつて手ささはつて見たり著物をつゝいてみたりしてゐます。可笑しいと思ひながらもだまつてゐますと「先生生きて居たの？」とさゝます。いよ／＼何の事かわからなくて「どうして？先生はご丈夫よ」と念をおすと

「先生は昨夜虎にたべられたんぢやないの？」と眞面目にききます。はてこれは何か夢を見たに違ひないと思つてだん／＼聞いて見ますと、先生が虎にくはれたので幼稚園の皆とさがしに出かけたけれども見つからなかつた、オイ／＼ないてしまつて、お母さんに叱られたけれど、それでも先生は虎にくはれたと思つて今朝来て見て先生がゐるので不思議でたまらなかつたとのことでした。

この、うそと知らずにいふうそは大抵の子供にあらることで殊に五六歳の頃に多いのです。これを頭から叱かるのは勿論してはなりません、さうかといつて想像の世界に夢見てゐる子供をこちらでおだてるようにしていかにもさうかといふ様に面白がつてきくと、初めはうそと知らずにいつてゐる晝夢の狀態から眼がさめて、しかも、大人がよろこんで聞いてくれるので今度は意識しながらつくりごとをいつて大人を喜ばせようといふようにならないとも限りません。この邊の取扱ひが實際上餘程難しいと思ひます。まづ、あたらずさはらずに返事をする方がよいので、例へば繪本で自動車の衝突を見た子供が、ふと「あのね、今朝おうちのまへで電車と自動車と衝

突したの」といつた時など、それが事實でない事はわかりきつてゐるのに、「さうどんな風に？誰か怪我したの？」などと根ほり葉ほりきかないで「さう、あぶないのね」位にうけながしておけばその子の晝夢もそれでさめてしまふのです。かうしたうそは子供の想像全盛の時期をすぎれば自然に少くなるので心配する事はありません。心配しないでよいばかりでなく、子供が子供らしく、想像の盛んな世界に生きるといふ事は、私共の一生を通じて二度とめぐつて來きりつめた實生活から割り出して批判しては可愛相です。

たゞ、時折、このうそと知らずにいふうそを、子供が晝夢にふけるためのうそであるといふことを氣がつかないために、いかにも故意な他人をおとし入れたことのやうに解釋してそのために罪もない子供が叱られてとんだ迷惑をする事があるかと思ひます。例へば、嘗つて私の組の子供にかういふ出來事がありました。

日頃どうも晝夢にふけりやすいK子が、ある秋の末の一日、前日から團栗ひろひに夢中でしたがこの

日も「お早う」と先生に挨拶するなりすぐ裏庭へ行つて團栗を拾つてゐました。歸つて來た時は同じ組のMさんと一緒でしたがK子曰く「今ね、向ふへ行つたらば鳥が居ましたよ。そしてね、カア／＼つてないてゐましたよ。そしてねMちゃん石をぶつけてね、羽根を折つてしまつたの」と。傍のMちゃんは、前掛一杯のドングりをうれしさうにガチャ／＼いはせながら「う、そばかり」と笑つてゐました。K子もそのまま團栗をもつて遊んでゐました。

これはK子がMちゃんを讒訴したのもなく、ただ團栗をひろつて居た時、鳥が來たこと、そこに腕白ざかりの男の子Mちゃんのこと、これが結びついて嘗つて「おはなし」で聞いた「羽折雀」の出來事を思ひ出してかうしたことをいつたのであると私はこれをきいた瞬間に思ひついたのでした、かういふ場合には「そんなうそをいふものでない」と叱る勇氣もありません。いかにも子供らしい心持にそのまゝ肯定も否定もしないで一緒に團栗をわけてもらつて遊んだのでした。

○つひ云つてしまふ、そう、

これは、大人にも有りがちなことで、たゞ、我々は「つひ、言つてしまつた」で責任をのがれるわけには參りませんが、幼児がこのつひ、言つてしまふうそは、ごく悪氣のない場合が多いのです。お父様の書齋へ遊びに行つて、うっかり鉛筆で大事な本の表紙にグ／＼と渦巻をぬつてしまふ。氣がついて、これは大變と思つてゐる所へ、お父様が這入つて來て恐しい權幕で「坊がしたのだらう」と仰つしやると、つひ、實につひ、「いゝえ僕しらない」といふ。すさまじいお父様の語氣や態度が、子供のかよい心をとおとしてしまふのです。また、これを反對に、お母様のお仕事そばで遊んでゐて、ふと缺が面白くなつて、その邊に一ぱい紙を切り散らしてゐる、お母様がいつてゐらした時、あんまりやさしく「おや／＼、こんなに散らしてしまつて、坊はいつも、いゝ子だ、こんなことをするのはうちの坊やぢやありませんねえ」と仰つしやると「母さんごめんさい」とお詫しようと思ふ氣がつひ何處かへ飛んでしまつて、「ええ、私ぢやないの」といふ。これは、どちらかといへば、大人の方からうそをいふように仕向けるので子供は全くつひいつてしまふのであります。この種類

のことは餘程氣をつけて、かうしたうそをいふ場合をつくらぬ様に致しませんと、これが進んで。

### ○云ひぬけのうそ

をいふようにならないとも限りません、云ひぬけのうそになると子供だからといつて大目に見のがせなくなりませう。何か失敗をすることでうしやうと思つた瞬間に子供はワッと大聲に泣き出す。この時に大人は可愛相になつて、加勢するつもりで「なあに、泣かないでもいゝ、坊がわるいんぢやない、このおてゝ(手)がわるいのだから」などいふ。いはれた子供は、この時に、罪を他に歸するといふ事を、知らず知らず覺えます。一寸臺所へ行つて御馳走を撮む。「あら、いけません」と叱ると「うゝむ、坊ぢやないの、このお口がわるいの」などと早速子供は應用します。つまり大人にいはれたのでそういへばのがれると思ふのです。けれども、いひぬけのうそほどいやなものはありません。私は幼児がかうした態度で出て來る時にいつでも悲しい暗い心持になつてしまひます。いひぬけといふことは弱者のすること、何か氣がどがめる事があるので自己防衛のためにさる手

段です。幼ない頃から、たとひどんな小さな事にも、かうした芽をつくる様にすることはいけません。叱られるのがこわさの言ひぬけは、そこまで考へる子供の心を察すると可愛相です。これには、よし子供が失策をしてもそれをありのままに云つて、云ひ甲斐のある様な取扱をしてやれば自然いひぬけを考へなくなりませう。今は少くなりましたが、極端な體罰や、おどしをしない様にすることが大切です。何のどがめる氣もなしに子供に接するのに、子供の方からいひわけがましい事をいふと淋しい心になります。ある時、まだ五つにも満たない子が手に綺麗な花をもつてゐるので、何心なしに「綺麗なお花ね」と。いへば「先生これ落ちてゐたのを拾つたのですよ」と。かういはれた私はぞつとするほど暗い心持てなりました。何故「えゝ先生、綺麗でせう？」といつにくれないのかと思ひました。所有慾のつよい時期に、花をとりたい、自分の手にもちたいのは自然のこと、たゞ子供のはいつてならぬ庭であるために、「お花はとらないことにませう」と約束をしておく。ふと取つてしまつて、後から、全く後から、さるのはわるいと氣がついたこの子供の心は何といふ可愛相な

事でせう。ビク／＼してゐる、其の時先生に何といはれても、叱られるとこゝろのは無理もないので、つひいひぬけを考へ出すのです。私はこの時に無邪氣な子供が罪をつくる様な境遇に子供をおかない様に極力つとめたいと思つたのでした。

私共が不用意なために、子供にいひぬけのう、そを言はせる場合をつくるといふことも有り勝ちなことと思ひます。幼児はまだ道德意識の明らかでない時期にあるのですから、悪いとしりつゝ初めから口實を考へてするといふよりも、うつつかりしてしまつて、どがめられて、びつしりしてその時に突嗟にいひぬけをする事が多いのです。ですから、大人の方から、そのとろ態度に氣をつければう、そをいはずで済む場合が澤山あると思ひます。

いひぬけのう、そは罪のないう、そといふ事は出来ません。これは悪いことをしたらありのまゝにいひぬけがよい子であるといふ事をよくわからせる方が大切で、取扱ひのわるいために、言ひぬけを覺えさせたり之を助長させたりする事のない様に致したいものです。

## ○いたづらのう、そ

これも、大人の方から教へる場合が多いのです。子供が下うつむいて鉛筆でしきりに繪をかいてゐる。無心なその様子が何ともいへず可愛らしいのでつひ襟元を一寸突付く、子供がふりかへるとかくれてしまふ。今度またすると見つかると、子供は眞面目な自分の仕事を邪魔されたので少々興奮して、「お父さん、いや？」といふと「父さんぢやないよ、天井のチユウ／＼よ」などと免れます。これがまた子供に面白くなつて、所謂からかひになります。「頭にごみがついてゐますよ」といはれて一生懸命拂はふとすると「どうも御苦勞様」などと、いふからかひは、幼稚園で幼児同士面白がりまた先生を笑はせます。

この種類のもものは、罪がないう、そといへばいへませんが、だまかす事をいつの間にか教へるようになりはせぬかといふ心配があります。それ程までに行かすとも、子供をからかふといふ事が彼等を不眞面目にする事はたしかであると思ひます。いつも子供は遊んで居るとよく申しますが、遊ぶそのものが子供の生活なのですから、やはり眞面目に遊んで



ほしいのです。また子供の本性としては、それこそ私共には考へおよばない程眞面目に遊ぶものです。

それを一寸のいたづらのうそをしてからかふ事をすると、どうしても不眞面目になります。あまりおどけた子供はいやな氣がします。それは、私共大人の行きつまつた心が、子供のおどけに接すれば、氣がかるくもなりますが、子供の生活といふことを考へますと、おどけた子供はたのもしくありません。まして、だます事をしらすく教へるといふ様に導いたづらのうそは餘程慎んだ方がよいと思ひます。私の經驗によると使用人(特に商家などで、番頭や小僧などの多い)の澤山ある家の子供におどけた不眞面目な子供が時々あると思ひますが、これの原因も或はかうした、いたづらのうそを教はる機會が多いためではないでせうか。

### ○人を喜ばすためのうそ

子供は無頓着で、自我主義で、あたりかまはずふるまふものですが、あれでなか／＼人に喜ばれたいといふ心持のあるものです。案外に名譽心のつよいものです。大勢人の見てゐる所で勢よく走つてゐる

子供がふと轉ぶと仰山に泣きます。膝をうつて痛いからかと思ふと何處もどうもない、實は折角の得意の顔を轉んだために大なしにしたので氣まりがわるくて大聲に泣いたといふことがよくあります。他人、ことに、自分の親しい両親や、兄弟や、幼稚園の先生には喜ばれたいといふ心がなか／＼あります。これは決してわるい意味のものではなくて、自分を可愛がつてくれる人の機嫌のよいのを喜ぶといふ、愛情の發露から來るのです。「母さんのお顔綺麗ね」と、膝に抱つて顔をみつめてゐた子供がいひますと、かういはれた若い母親はこれがうれしくてたまらないので、「坊はい、子ね」と頭を撫でながら、カステラの一片を御褒美に下さる。思ひがけない賜物をうけた坊やはその次には、また母さんをよるこばせて、そしてカステラをといふ順序で、つひまたさうしたことをいふ様になる。時には大勢親戚など集ると若い母さんは坊やを味方にして「母さんのお顔は」など、問ひかけて「綺麗ね」といふ催促をしたりする。いはれた坊やは、この時はさう思はなくともさういつてしまふ。かういふ場合がよくあります。先にうそと知らずにいふうそのところで申しまし

た晝夢の時もこれと同じであんまり調子にのつて聞きますと、人に喜ばれたくてつくりごと、意識しつづいふ様になつてまゐります。

このうそはこれが嵩じると諂ふといふ好ましくないことになりやすいものですから、助長させない様にするのがよいと思ひます。しかし子供は大人の生活のやうに計畫しませんから、初めはお世辭をいふつもりでも何でもないの、これを「お世辭をつかつてゐる」など、大人の複雑な頭から曲解しては可愛相です。ふうわりとした心でその時々を受けとつてうけながして行く方がよろしいと思ひます。とがめだてをしなければならぬ程に子供はその言葉に責任をもつてゐませんから。

### ○みえ坊のうそ

男の子でも女の子でも、三人五人とよつて話してゐるのに、自慢を爲合ふ事がよくあります。

「僕のうちには大きな自動車があるよ。」

「いくつ？」

「一臺さ。」

「たつた一臺？僕のうちには十臺もあるさ。」

「私のうちには簞笥があつてよ。金の持つところがついてゐるのが……。」

「さう、私のうちにもあつてよ。金ぢやないの、ダイヤモンドよ。」

「僕のお父様は偉いせ、お室ぢう一杯本をもつていらつしやるよ。」

「僕の父様だつてもつと偉いせ、お室ぢうぼつち(ばかり)ぢやないさ、お庭もお臺所も皆本だらけだせ！」

「私のお母様はお背せいがそれはくお高いのよ、お二階の屋根位あるの。」

「あら、私のお母様はもつとくお高くしてよ、天まで届きさうよ。」

だまつて、傍できいて居りますと、噴飯したい位とりごめもない事を言ひあつて居ります。これは、みえ坊のうそです。ここに、身分の違つた子供が二三人集まると、かういふ自慢がとかく始まりやすいものです。幼稚園などでも一つの組にあまりかけはなれた身分の子が一緒に居ると、とかく豊かでない、家の子がまけまいと思つて途方もないことをいひ出します。この種類のうそは打すて、おくと虚榮心を

つよめることになりはしまいかと案ぜられます。さうかといつて、お互に自慢を爲合つて居るその時に「そんなことをいふものではない」と叱つて見たところですぐにやめるものでもありませんし、しかし、かういふ場合をくりかへすことは勿論望ましい事ではありませんが、私の考へでは、かうした時には、なるべく子供等が他に興味を轉ずる様に面白い遊びを思ひついて、その方に氣をむけさせる事が一番無難かと思ひます。子供は案外、氣の轉じやすいものですから、自慢の言ひあひをする場合をくりかへさない様にして、かうしたうそをいはずにせぬのがよいと思ひます。この點から考へますと、あまり身分の差のある子供が遊び仲間となると兩方のために思はずくない事がありはせぬかと思へられます。

幼兒の所謂うそをいふ場合は先づ以上が主なもの様です。この他に小學校へ行く頃になれば、またいろいろ道徳上に憂慮すべきうそも言ひかねませんが幼兒期には、特別にひねくれた境遇にぞだつた不幸な子でない限り、罪のないうそが多いので、したがつて、うそを言つたと叱られても、何を叱られる

のか當の子供には合點が行かないものです。

幼兒は、その心的發達の上で、想像を盛んにするといふことのために、言ふことが誠にあてになりません。しかし、さうかといつて頭から子供をうそをいふものとして取りあはないといふことは如何にも殘酷なことです。小さいながらもその人格を尊重したいと思ひます。それで、私は

### ○子供を信じたい

といつも切に思つてゐます、人間が人間を信ずるといふことは、美しいことに相違ありません。たとひ幼なくても、その人格を認めて、信じたいと思ひます。親に疑はれた子供、先生に誤解された生徒はどみじめなものがありますまい。誰も信じてくれなくつても、私共はせめて親なり先生なりには信じられてほしいと思ひます。不良少年になる原因の主なものは、この信じて貰ふ人がないといふやるせない心の淋しさから來て、自暴自棄になるためといふことも聞いて居ります。

まして、幼兒のいふ、一見うそに見える事はその心の發達の上から深く考へて行けば、いづれも、罪

のないものですからこれを、大人の道徳を標準としてとがめてはあまりに可愛相です。よし、また、あの年のゆかない子供が、時に、「自分のためにたくらむうそ」をいつたりするやうな事があらうとも、さういふことになつたのは、その子の境遇が不幸しあはせなためであると考えれば、むしろ同情してやらねばなりません。

罪のないうそを意識もせずと言つて居るのを、大人が「うそつき」だといつて叱りますと、初めは何でしかられるのかわからなくても、段々うそいふことをおしへられて、今度は意識してうそをいふさいふ事にもなります。氣をつけなければなりません。私は嘗つて幼稚園に居りました時に、此の點で随分頭をなやました。一體に幼児がうそいふ言葉を屢々亦平氣でつかふのに先づびつくり致しました。

「先生！誰さんがうそをつきました」とか、先生が一寸子供とした約束をわすれてゐると「先生うそつきね」などと申します。うそいふ言葉を嚴密に考へて見れば、これは道徳上の重大な悪であります。外國では「あなたはうそつきです」といはれたら、その人は大變な恥辱をうけたわけで、また、仲間はずれを

宣告された事になると聞いておりますが、私共は、幼ないころから「うそつき」といふことを平氣で云ひ馴れて居ります。言葉の上の争ひのやうですが、私はたゞ少しでも自分の心やすさのために、組の子供のこどばから、うそいふことをのぞく事に努力したものでした。うそ子供が申しますと、私は、びつくりした顔をして「うそつて大變わるい事です。よ。そんなことは私達はしませんの。皆いゝ人ばかりですもの、それはね、誰さんが間違つたのでせう。考へ違ひをしたのでせう」とか「お忘れになつたのですよ」などと、言ひなほしてやりました。どうも、子供の頭では、何でもことが間違へば、それをうそと思つてゐるやうです。倫理觀の出來てゐない、あの幼ない時期には、さうした意味をもつ言葉をつかはせない方がよろしい様に思はれます。

人格尊重などと申しますと、何だかむづかしくなりますけれども、これからの子供は、小さい時分からしらすくの間まに自他の人格を尊重する心持をやしなつておきたいと思ひます。自分の人格の尊さを充分知つてこそ人の尊重する事が出来るのですから。先達よみました本の中に、ある外國婦人の幼時

回想の話がありました。それに「自分がまだ幼ない頃、母親から小さな箱を貰つた。引出しがいくつかついてゐて綺麗な箱なので、喜んで、これを大切にしまつて置いた。別にその内に祕密なものを入れてあつたわけでも何でもないが、自分のものごいふ感じが強く、誰にもそれに手を觸れさせたくなかつた。ところが、或日母親がその引出しをあけて居た。之を見た自分は、形容し得ない不快と腹立たしさを感じた。何ともいひあらはすことは出来なかつた。あの時の心地は今にあり／＼と思ひ出す。といふやうな事がかいてありました。成程さうだと思ひました。どうも私共は暴君の様に、幼児にふるまひます。勝手に子供のかけてゐるエプロンのポケットに手を入れたりする事があります。子供を信じたいといふ心持はやがて、子供のもつて居るものを犯すまいといふ心にもなりません。

よく、子供の方から、先生の懷に手を入れたり、時計を引っぱり出したりする事もあります。勿論、悪氣があつてするものでも何でもないのですが、幼ない頃から、よい習慣をつけるためには、さうした些細の事も、やさしく「そんなことするのはお母様は大

きらひ」とか「先生はきらひ」とかいつてやめさせた方がよいと思ひます。人の袂や懷に手を入れる事をする子は、自分の懷に他人から手を入れられても平氣で居る子供でそれでは、自分の犯された事に對する不快を感ずるといふ何とはなしの微妙な感じをやしなふ事が出来ません。人を信ずるためには先づ自分を信ずることが出来なければなりませんのですから。どんなに幼ないからと言つても「坊はうそつきだ」といはれたら腹を立てるほどの子供に育てたいものです。うそ、うそ、平氣で言つてこれを常用語にしてしまふのはいけない事と思ひます。

### 〇二月常會

日本幼稚園協會二月常會は、都合によりまして、臨時休會と致します。

## ○通りがかりに

冬の陽の暖かに照るある日の午後、神田の電車の交叉點から一寸はいった裏道を急いで通りぬけようと思つた。そのせまい横道、電車と車から見すてられたこの細道で、四つ許りの男の兒が、凧をあげて居ました。あげるのか引摺るのかわからないほどに、凧は背中におんぶされて行くのでした。そのうちに、どうした拍子か凧が背からはなれて地上を二三尺のほりました凧をかついだこの子は一足かけるごとに、ふりかへつてゐましたがこの時、ニコツと笑つて、五六歩走りました。その途端、向ふから急ぎ足に來た何處かのをぢさんが、すれちがつて、アツ！と思ふ間に、外套の端に凧を引っかけ、氣がついて「えい、うるさい」とばかり之をふりはらつて過ぎ去りました。凧の糸はきれました。龍の胴は傷つきました。私はこの時、この子がどうするかと眼を見張りました。ワアツと泣くだらう？或はをちさんひどい！とどなるだらう？かう思つてゐるその瞬間、うしろむいてかけて居たこの子は、すぐむきなほつて、凧の成り行きを見て、アラ！といひました。しかし顔はかッやいてゐました。につこり笑つてゐました。「また駄目になつちやつた」。力づよくかういつて、凧を拾ひあげました。切れた糸を兩方の手で子供らしくかさねてゐました、ぢれも泣きもしないで、「今度、僕うまくやる。天まであげてやるよ！」と凧に話しました。私は、この時、ほんの通りがかりに、何處の子ともしらないこの子がよく育つてゐると思はずにはゐられませんでした。何といふ力づよさでせう。この子はきつと轉んでも、おどし泣きをしないで、人の助けを待たないで、さつさと起き上る子です。へこんだゴム毬がそのまゝ轉つてゐるのでなしに、いつも打てばはづむ毬です。やりそこなつても、つぶやかずに、またやりなほす子です。自分の小さい足をふみしめて、自分の力であゆむ子です。服装などを見た所では家庭も手不足で、あまりかまはれない境遇かと思はれましたが、それがかへつて、小さいながらの獨立心を養つてゐるのでせう。その獨立心も、意地をはるといふ厭味がなく、内にみちる元氣が、この子をにつこり笑はせて、「今度ほうまくやるよ」といふ望みをおこさせます。張りのある子は氣持のよいものですね。(十・一・二九)

# 愛兒のしつけ方

東京京橋南紺屋町

實業之日本社

振替東京三二六番

最新刊

前東京高師教官 横濱市視學

加藤末吉先生著

▽定價一圓五十錢   ▽郵稅八錢  
▽四六判總クロス   ▽函入美本

## 我の子の躰け方叢書

—— 編 一 第 ——

▼世の中に親として愛兒の立身出世を願はないものではありません。されば何が楽しみと云つても子供を善良にしつける程愉快なことはありません。所が子供を完全にしつける事は實にむづかしいもので、丁度若い芽生を培ふやうに、極めて幼少の頃から細心の注意を拂つて仕込まねばなりません。それ故實際に適したしつけ方の書物が、如何なる家庭にも必要であります。

▼本書は著者が多年の實驗上の見解と最新の兒童心理學上の學說に基き、家庭教育の全般に亘つて親たる者の心得を述べ、子供の智情意の啓發法から、習慣、癖性、遊戯、禮儀、作法等のしつけ方に至るまで精しく懇説したものであります。世の親たる方々は家庭の幸福のために是非お読み下さい。

### —— 斑 一 容 内 ——

しつけの尊重：習慣の力：親の實力：意志の發達：善惡の区分：衝動と習慣：癖性と思慮：遊戯について：作業について：愛情・感情：禮儀作法：言葉づかひ：國民としての教育：團體と閉：慰安の仕方：芝居講談等・興味：轉換：暗示の利用：趣味の生活：危險と困苦：指導者の反省：附録 訓話十二月

東京市麴町小學校長 土川五郎先生新著

# 大正幼年唱歌表情遊戯

著者の自序の一節に「葛原・小松・梁田三君によつて著されたる大正幼年唱歌は今や全國津々浦  
 浦迄も用ひられ歌はれて居る。畏友葛原君はこれに表情を付する事を予に托さる。予律動的遊  
 戯の研究をなすこと茲に九年、其の間歌謠の表情に對しても聊か卑見ある一人であつたのと、  
 葛原君が兒童幼兒の爲に貢獻して居らるゝ事に對し常に敬意を持つて居つたので、自分の淺き  
 經驗と薄き才學とを顧みる暇もなく直ちに快諾したのである。……云々」と即ち本書は兒童  
 遊戯の研究家として實に斯道の權威たる著者が大正幼年唱歌第一集より第六集迄の歌詞の中、  
 表情に最も適したるものを選び深き根據に鑑みて作つたものである。されば幼稚園・小學校等  
 は必ず一本を備ふべきものと信ずる。

廣島高等師範學校訓導 山本壽先生新著

好評

## 尋常小學唱歌

定價 金貳拾五錢  
郵稅 金貳錢

- 一年用 二 一 お日様
- 目次 二 一 猿蟹合戦
- 三 三 螢狩り
- 四 三 舌切雀
- 五 六 菊取り
- 六 六 菊の花
- 七 八 木口小平
- 八 八 菊の花
- 九 九 お正月
- 十 九 飛行機

### 少年少女の無二の友

明治三十四年一月二十八日第三種郵便物認可(毎月一回十五日發行)

大正十年二月十二日印刷

發行所 東京市橋區南馬丁二丁目九番 振替口 東京市橋區南馬丁二丁目九番 振替口 東京市橋區南馬丁二丁目九番